



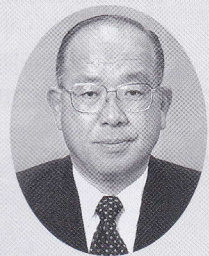
山鈴底

平成27年10月15日
【October 2015】

題字 元文部大臣 瀬戸山三男氏

MINAMI KYUSHU UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

ご挨拶



南九州大学同窓会会長

加藤 研悟

今年の日本列島の夏は、立て続けに多くの台風が襲来し、被害が各地に出ています。特に、台風18号から変わった低気圧の影響で、関東や東北では大雨が続き、栃木県、茨城県や福島県では50年に一度の規模の記録的な大雨となり、多くの河川が決壊し、市街地が広範囲に浸水しました。

同窓会会員の皆様並びに在学生の保護者の皆様におかれましては、台風の被害はごさいませんでしたでしょうか。

被害に遭われました方々に対しまして衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、日頃より同窓会活動にご協力をいただいております事を衷心より感謝申し上げます。

さて、南九州大学は創立されて48年目を迎え、2年後には50年という大きな節目を迎えます。会員と準会員である学生を合わせると1万1千人を超える大学となり、宮崎県を代表する私立大学へと成長しています。

平成26年7月の第3回評議員会において、中期5ヵ年計画の中で、大学・短期大学50周年事業開催という項目があり、「記念事業実施にあたっては、同窓会と連携した上で、委員会を設置し計画立案を行う。予算規模は1千万円として、この先本学OBとの連携をさらに強化し、宮崎県下における南九州学園の地位を確固たるものにする事を本事業の目的とする」という提案がありました。

この提案を受けまして、昨年度の同窓会総会におきまして、同窓会事務局より次のような緊急動議を提案し、可決されました。

①大学50周年記念事業を成功させるためには、同窓会と理事会の協力が不可欠であり、そのために、同窓会から学校法人南九州学園の理事会のメンバーとして加わることが絶対に必要である。

②高鍋キャンパスは約6年という長い期間放置状態であるが、売却するようなことはせず、大学当局と同窓生の知恵と技術を結集して、有効活用ができるように努める。

この二つの提案を纏めて、12月8日に長谷川理事長に対して次のような要望書を提出し、回答を求めました。

平成26年度南九州大学同窓会総会において同窓会員の総意として決意したので、学校法人南九州学園理事長に以下の項目について要望する。

①学校法人南九州学園理事の中に同窓生2名以上置くこと。

②学校法人南九州学園所有の高鍋キャンパス跡地については、有効活用を第一義とし、売却については断固反対する。

平成27年2月5日の回答は以下の通りであります。

①学校評議員には卒業生枠があるので、学校評議員の中から選出される理事になることは可能である。要望の件については、学校法人南九州学園寄附行為の中にはないので不可能である。

②高鍋キャンパスの有効利用については、同窓会で良い案があれば出してもらいたい。しかし、理事会としては、新5ヵ年計画に則って、財政健全化の為に、売却する方向で考えている。新5ヵ年計画は理事会で承認されている事項である。

回答は文書でと申し出ていたのですが、理事長からの回答は口頭での回答でありました。

創立48年目であり、約1万人の卒業生を輩出している大学の、同窓会・同窓生に対する姿勢としては余りに後ろ向きな対応に、卒業生の人として何とも言えない寂しさを感じました。

南九州大学にはオーナー経営者はいません。強いて誰かオーナーであるかと尋ねてみると、それは苦難な時代を乗り越えて頑張ってきた同窓生と教職員ではないかと思っています。特色ある大学づくりに必要なのは、新・旧大学職員と卒業生との連携であり、旧職員と卒業生を大学発展のために活用させようとする前向きな考えの経営陣なくしては南九州学園が生き残ることとはないと考えています。

平成27年度からの学長を選挙選考において、同窓生の平岡直樹教授が立候補し、惜しくも同点2位（最終決定は理事会）という結果になりましたが、すばらしい結果を出して頂いた事は、必ずや次に繋がることと信じています。

これから同窓生と保護者各位のご理解と、ご協力を得ながら、準会員である学生のために頑張りたいと考えていますので、何卒お力添えをよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



南九州大学長
寺原 典彦

本学に長く（33年間）在籍しておりますが、学長や学部長を歴任してきたキャリアを活かして、少しでも本学のお役に立てるよう微力を尽くしていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、ご存知のように、昨今は18歳人口減少による大学間学生獲得競争の激化や、大学の地域格差の拡大などの原因により、大学倒産の危機をはらむ状況にあります。一方で、社会人の学び直しのニーズ、グローバル化に伴うアジア諸国からの留学ニーズの高まりなどがあります。その中で、大学教育の質的転換の要望はますます高まり、大学自ら新しいガバナンスの枠組みを主体的につくり、学生の専門教育・研究はもちろんのこと、社会の求める「主体的に学び考え、どんな状況にも対応できる人材」育成の重要性が叫ばれるようになってきています。

このような中、地方の小規模大学である南九大が将来にわたって安定的に存続し、宮崎県を代表する私立大学としてさらに発展していくためには、本学の現状を見据え、機動的に大学改革を実施していく必要がありそうです。もちろんこれまで、各学部・学科でできるところから改革は継続的に進められており、環境園芸学部はこれまでの実績に加え、地域の特色を活かし時代の要請に応えることのできる学部へと脱皮するための改革を行っており、学生募集状況は改善される方向にあります。

人間発達学部は先進的な取組で、地域社会からの強い信頼と大きな期待を寄せられる存在へと発展しております。また、管理栄養学科は管理栄養士の国家試験で高い合格率を維持しつつ、学生定員増に伴う学科運営の諸問題も教員の努力によってクリアし、社会的評価は益々高くなっており、食品開発科学科は、昨今の食に対する社会的ニーズに応える学科を目指して改革に取り組み、学生募集状況は徐々に改善されてきております。このように、個々の改革に伴う一定の成果は出ておりますが、まだ施設・設備や教育・研究制度の充実が遅れている面が見受けられ、外部認証評価などではまだ満足できるまでには至っていないのが現状です。

では、南九大の特徴（長所）とは何でしょうか？私は、（1）宮崎県で最初の、かつユニークな園芸学部の私立大学であり、園芸学部をベースとした約50年の蓄積された学校資源（歴史・伝統・文化、南九大カラー）がある。（2）現在、宮崎と都城の2キャンパスに専門性の高い3学部本4学科を持ち、人類にとって重要な「食」「緑」「人」を教育研究理念としており、「環境と生命の調和」のシンボルマーク（)に象徴されている。（3）学生数12000人程度であるために、小回りの利く小規模大学である。と捉えています。

このような本学の特徴を有効に生かして、全学的な将来ビジョンを建て、現有学部・学科の充実を手始めにスピーディーに改革を進め、平成30年頃までに、「差別化された独自性を持つ小規模大学」「南九大らしさ」のポジションを確立することが重要な点と考えております。

このような方針で、本学をこれまで以上に評価される大学にしていくために教職員と協力して努力していきたいと思っております。今後とも皆様のより一層のご理解とご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

残暑もようやく和らぐようになった今日この頃ですが、同窓生の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、南九州大学の運営について、日頃よりご理解をいただき、厚くお礼申し上げます。本年度から学長に就任しました寺原でございます。